

令和6年度第1回苫小牧市環境審議会（会議要旨）

日 時：令和6年5月31日（金）15:30～17:00

会 場：市役所9階議会大会議室

出席委員：12名

事務局：石黒部長、鈴木次長、櫻井室長、斎藤副主幹、中山主査、田村主査、山本主査、石川主査、  
田村技師、笠山主事、  
安友課長（※ゼロごみ推進課長）（11名）

要 旨：以下のとおり

（諮問）

（仮称）再エネ条例について

---質疑なし---

（議題）

（1）令和5年度環境白書（令和4年度実績）について

---質疑なし---

（2）ゼロカーボン推進啓発事業及びゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！について  
（令和5年度実績及び令和6年度実施予定）

<A 委員>

ゼロカーボンは非常に大切な活動だと思うのですが、各イベント毎にゼロカーボンって一体どういう概念かという説明はされていますか。

ゼロカーボンと言われても、説明できる人や分かっている人は結構少なく、一つの筋道がないと、ただイベントだけやっているということになりがちだと思います。参加している人達が、ゼロカーボンって一体何だろうということを、はっきり把握する必要があると思います。

<笠山主事>

ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦事業について、全ての事業でゼロカーボンを謳ってはならず、例えば事業03「せせらぎスクール」のように、環境保全の啓発を目的としている事業も多数実施しております。

ゼロカーボンに関連するイベントは、先ほど申し上げた「キックオフイベント」や「大作戦祭り」等、多数実施しておりますが、各イベント毎の主旨に沿って来場者の皆様へ、〇〇を実施するとCO2排出量が削減されて地球温暖化対策に繋がることを総称してゼロカーボンですと説明をしたり、ミニ講座を実施しております。

<B 委員>

昨年度に募集した「みんなでつくろう！ゼロカーボンかるた」は、現在どこまで進んでいるのでしょうか。

<石川主査>

市民の方から読み札を募集して50音を全て決めており、今度は市内の小中学校や児童館にお配りしたいと考えております。

#### <C 委員>

イベントの中に「出前講座」とありますが、具体的にはどのような内容の出前講座をやられていますか。

#### <石川主査>

出前講座は様々な方からご依頼をいただいております、例えば小学校や中学校でしたら、ゼロカーボンについて分かりやすく噛み砕き、日頃自分たちがどんな取り組みができるのかを小中学生向けに説明しております。

一方で企業から出前講座をしてほしいというお話もあり、例えば市内の他の企業さんの取組を紹介したり、ご依頼を頂いた方に合わせて、工夫して実施しております。

#### <A 委員>

イベントの話ですが、どちらかというと CO2 排出量を抑える話が多い気がしますが、子ども達には今ある自然が、例えば森林が CO2 をどの程度吸収しているのかをイメージできることがゼロカーボンの啓発に必要なかと日々考えています。

もし可能であれば、そんなイベントもやっていただきたいと思います。

#### <笠山主事>

森林に関するイベントとしては事業 08「親子森林整備体験 秘密基準を作ろう」で実施しております。

森林整備の大切さや自然環境の保全について学ぶイベントとして実施しており、同じように森林保全についてメインとなるイベントについても、今後イベントを検討していく時に参考にさせていただければと思います。

#### <A 委員>

例えばイベントの中で、一本のサイズ、例えば 20 cm の直径があって、15 m の木があったとしたら、この木が一体どれぐらいの CO2 を吸収したのか、具体的にイメージできることはとても大切だと思います。計算すればすぐ出ますので、プログラムに入れられたら凄く良いと思います。

街路樹一本を見ても、その街路樹がどれぐらい CO2 を吸収しているのかをイメージできる人は少ないと思います。理解してみることで、実感もできるし、大切さも分かってくると思います。

それに対して、自分が排出している CO2 がどれぐらいなのだと比較することで、ゼロカーボンの難しさが人ごとではなく、充分一人の単位でも分かる効果があると思うので、ぜひ検討していただきたいなと思います。

#### <櫻井室長>

自然の中で行う「せせらぎスクール」等のイベントや、先ほど説明があった「出前講座」の中で、実際にその自然の中でやる場合イメージしやすいと思いますし、出前講座ではスライドを使いながら分かりやすく数字等を使いながら紹介できるとと思いますので、組み込んでいけるように考えていきたいなと思います。

#### <B 委員>

今の質問に関連しますが、苫小牧に和みの森という素晴らしい森林体験をできる場所があります。昨日も札幌の中学生が 120 名来て、実際に森から木を引き出したり、切ったり割ったりしました。丁度今日の民報に載っていますが、地方の方が森林環境に対して感謝を持っていました。対して、苫小牧市内の小中学生には、地元で素晴らしい自然環境があるのに使われてない現状であると考えております。

私も運営協議会の会長として機会があったらお願いしたいなと思っておりまして、この機会に検討していただきたいなと思います。

#### <櫻井室長>

先ほどの説明があった「親子森林整備体験 秘密基地を作ろう」が、和みの森でやらせてもらっております。こちらで森林の大切さ、吸収源としても大切なものなので、きちんと管理していくことで、良い森になって、地球温暖化防止に

も役立つものと紹介をしながら、遊びながら、森林開発をしながらという形で行っております。今年度もやる予定ですので、是非またよろしく願いいたします。

<B 委員>

現在は小さい子供が中心ですが、学習段階の中学生くらいの子供達に森に関心を持って環境保全に力を入れていくような意識改革が必要だと思います。実際に森に来て学べる実体験ができますので、参考にさせていただきたいと思います。

<D 委員>

ゼロカーボンの意味をどうやって理解するのかなというのは、鳥田先生が質問されて考えてみましたが、カーボンの流れをイメージしながら、プログラムを全部作っていく必要があると思います。

なぜ CO2 が増えるかというと、元々、地下に埋まっていたものを我々が活用して生活に使っているのが出ているわけです。埋まっていたものを出していっぱい使っているから増えてしまい、バランスが悪いわけです。そういう現状も認識してもらわないといけません。

環境衛生部で生物多様性など色々されていると思いますので、それらの部分と生き物の豊富さ等がリンクしてくるので、上手く繋げるようなイベントの配置をしてくださると、より効果的だと思います。

<櫻井室長>

私たちがイベントをただやるのではなくて、できる限り何のためにゼロカーボンという動きをしているのかということをお伝えたいと思い、工夫しながら一応やっているつもりです。

EXILE の SHOKICHI さんが来た時も、分かりやすく噛み砕きながら子どもたちに伝えるために、スライドを使ったり、実際に学校の中を回って、自分達はこんな風に取り組めるんだということを体験しながら分かってもらえるような、楽しく学べるような形で、出来るだけ伝わるようにしております。是非、QR コードで動画を見て頂ければと思います。

### **(3) 苫小牧市第4次環境基本計画～第1期ゼロカーボン推進計画～進捗状況について**

<D 委員>

2030 年目標で 48%減に対して 2020 年実績は減っているように見えます。コロナの影響等で（一時的に減ったものが）増えるという話ですが、目標に向けて、特に産業部門が効いてくるということなので、工業都市であるとか先行地域や様々な計画が関係するとは考えておりますが、どのようなプランで削減していく方向性でしょうか。

<櫻井室長>

市は円グラフのとおり産業部門の CO2 排出量、主に工場が多いです。すでに大手企業は先進的に動き出しており、CCS で地中に CO2 を埋め込んだり、CO2 で燃料を作る等しております。先行地域の取り組みもそうですが、企業の様々な動きでこの先、化石燃料じゃない燃料にシフトしていく中で、中小の企業さんもそれらの燃料を使っていけば、CO2 が減っていく流れになると思います。

家庭部門については、エコキュート等が出ていますが、CO2 をより多く排出する灯油やガスの使用は残ってしまいます。企業の燃料転換などが確立された後で、家庭でも進んでいくと思います。市の関与としては、それら機器を入れるときの補助金を出したり、一生懸命啓発をして、切り替えてもらうという流れになると考えております。

<D 委員>

いろいろ新技術が出てくることによって企業さんもトライするわけなので、数値目標も出しにくいのではないかと想像しておりました。その中でも目標を定めて、排出量を下げたいけるように道筋を立てて進めて頂けると良いと思いました。

#### (4) J F Eリサイクルプラザ苫小牧について

<E 委員>

色々なイベントに参加した時に、とまチョップポイントが付与されると思いますが、施設に来た時にまたポイントが貰えるとか、もしくはその施設の資料室に書いてあったことに対しての Q&A やクイズに正解したら、またポイントが増えるとか、色々な使い方がこの施設でも出来るのかなと思いました。そこをどんどん活用していくと、行きたい・行ってみたいと思う人が増えると思いました。自転車も購入したらポイントがつくとか、そういったところにも使えるのかなと思います。

<安友課長>

現在、施設で行っている企画等では、適宜とまチョップポイントの付与を行っています。ただ一点、正確ではないですが、ポイント事業を開始した当初、来館者に対するポイントを付与する事業がありました。ただ現在は、公共施設にただ訪れただけで、ポイントを付与するという使われ方が認められておりませんので、単に来場するだけではなく、施設に来て講座を受講したり、自転車を購入するときにポイントを付与するような形で広めていきたいと考えております。

<E 委員>

今も（自転車を）購入したらポイントがもらえるのでしょうか。

<安友課長>

今ももらえます。

その他

- ・（仮称）再エネ条例について、部会での議論を踏まえ 11 月の第 2 回審議会で策定案を提示する。
- ・部会は第 2 回審議会までに 2 回ほど開催する予定。
- ・部会の開催日程等、詳細は改めて連絡する。